

平成22年2月5日

各位

会社名 株式会社エイアンドティー  
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 磯村 健二  
 (コード番号: 6722)  
 問い合わせ先 専務取締役 黒澤 研治  
 電話番号 045-317-1252 (代)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年12月期(平成21年1月1日～平成21年12月31日)の通期の業績予想について、平成21年8月6日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました予想額を下記のとおり修正いたします。

## 記

1. 平成21年12月期通期業績予想の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)  
 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	7,420	550	530	580	92円69銭
今回修正(B)	7,165	328	300	459	73円44銭
増減額(B-A)	△254	△221	△229	△120	—
増減率(%)	△3.4%	△40.4%	△43.3%	△20.8%	—
(ご参考)前期実績 平成20年12月期	6,255	214	192	58	9円33銭

\*平成21年7月1日付で連結子会社1社を吸収合併したことにより、非連結決算会社に移行しております。

## 2. 通期業績予想修正の理由

平成21年12月期の当会計期間において、臨床検査情報システム(LIS)、検体検査自動化システム(LAS)は、第2四半期以降も引き続き大型案件の堅調な増加を見込んでおりました。しかし、LISは2案件において、競合他社との価格競争による失注等により約53百万円下回る見込みとなり、LASは2案件において、年末稼働を予定していた病院システムの一括稼働が、準備期間延長となり来期にずれ込んだこと等により、約154百万円下回る見込であります。また、検体検査装置、臨床検査試薬、消耗品等は、恒常的な病院検査の需要に支えられてはいるものの、国内市場は飽和状態であることから、新規案件獲得等が低調に推移したことにより、約47百万円下回る見込であります。その結果、売上高は前回の予想額より約254百万円下回る見込みであります。

利益面においては、継続して製造原価低減に努めてまいりましたが、上述の売上高減少に加え、LISの業容拡大に伴い、先行投資としてエンジニア工数の確保を継続して行ったことで前年より業務委託費用が約111百万円増加し、売上総利益が約201百万円下回る見込みであります。また、販売費において、OEM元に支払っていた営業保証金を過去の販売実績を鑑み、貸倒引当金として28百万円を計上したこと等により、営業利益は約221百万円、経常利益は約229百万円下回る見込みであります。当期純利益につきましては、経常利益の減少により、前回の予想額より約120百万円下回る見込みであります。

以上

(注) 上記の業績見通しにつきましては、現時点で得られた情報に基づいて作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる場合があります。